

2021 年世界消費者権利の日「みんなで取り組む プラごみ削減」

World Consumer Rights Day2021「Tackling Plastic Pollution」

仮訳：日本生活協同組合連合会国際部

編集：全国消費者団体連絡会

世界消費者権利の日は、国際消費者機構（Consumers International：以下 CI）によって世界的に展開される記念日で、1983 年より毎年 3 月 15 日に祝われています。

2021 年のテーマ「みんなで取り組む プラごみ削減 (Tackling Plastic Pollution)」について、CI より公表されている「広報ツール資料 Resource Pack）」、および「キャンペーン概要資料 (Campaign Outline)」から、抜粋してご紹介します。

「広報ツール資料 (Member Resource Pack)」の「Template Press Release」より

今年の世界消費者権利の日（2021 年 3 月 15 日）に、世界中の消費者団体はプラスチック汚染に取り組むための世界的な変化を求めます。

世界消費者権利の日は、世界中の消費者団体が加盟する組織である国際消費者機構（CI）を中心に、消費者保護とエンパワーメントの重要性を強調するために毎年開催されています。2021 年は、プラスチック汚染に対する取り組みにおける消費者の役割と消費者擁護を強調し、世界中の消費者が環境と健康のために変化を求めていることを示します。



プラスチックは日常生活の中で非常に有用性の高い素材ですが、プラスチック、特に使い捨てプラスチックの消費と生産は、現在、持続不可能な状態にあり、世界的なプラスチック汚染の危機につながっています。これは私たちの生態系と健康に影響を与えています。世界的な新型コロナウイルスのパンデミックにより、プラスチック製のフェイスマスク、手袋、食品包装などの使い捨て製品の使用が増加し、プラスチック汚染に及ぼす影響を引き続き目の当たりにしている中で、このことは特に重要です。

消費者はプラスチック汚染に対する関心を高めており、すでに行動を起こしています。2019 年の世界的な調査では、プラスチック廃棄物に対する消費者の反応が強いことがわかりました（回答者の 82%が使い捨てプラスチック代替品の代わりに再利用可能な掃除用具を使用しており、72%が買い物の際に再利用可能な袋を持参し、62%が詰め替え可能な飲料ボトルを使用しています）。パンデミック禍で使い捨てプラスチックの使用が増えたにもかかわらず、コロナ以降、世界の消費者の 55%が環境への関心を高めており、74%近くの消費者（欧米、南米）が持続可能な包装にもっとお金をかけたいと考えています。

プラスチック汚染への取り組みと持続可能な消費を消費者が容易に選択できるようにするためには、政府、企業、基準設定者など、あらゆるレベルで市場の体系的な変化が必要です。必要とされる規模のインパクトを達成するためには、持続不可能な選択肢がもはや実行可能な選択肢ではなくなるような道筋が必要です。より持続可能な代替品を利用可能にし、アクセスしやすく手頃な価格で提供すること、効果的なりサイクルインフラを構築すること、そして消費者が情報に基づいた選択をするために必要な情報を確実に入手できるようにすることは、これを達成するための方法のほんの一部に過ぎません。

2021 年の世界消費者権利の日キャンペーンでは、7 つの R に焦点を当てます。7 つの R とは、Rethink（考え直す）、Refuse（断る）、Reduce（減らす）、Reuse（再利用する）、Recycle（リサイクルする）、Repair（修理する）、Replace（置き換える）です。私たちは、世界中の消費者がいかにして 7R のひとつひとつに行動を起こしているか、政府や企業がより多くの行動を支援すべきであることを求めているかを示します。消費者が実践できる行動として、プラスチックの使用を最小限に抑えるために消費習慣を再評価する、可能であれば不要なプラスチックを拒否し企業や政府により持続可能な代替品を求める、購入して廃棄するプラスチックの量を減らす、プラスチック製品を再利用することでプラスチック製品の寿命を延ばす、地域のリサイクルガイドラインに従ってプラスチック廃棄物を適切に処分する、可能であれば製品や電化製品を修理する、プラスチック製品や包装をより持続可能な代替品に置き換えること、などがあります。

CI 事務局長の Helena Leurent 氏は次のように述べています。「プラスチック汚染は、私たちの地球が直面している最も差し迫った問題の一つです。プラスチック危機に対する消費者の意識は世界中で高まっています。消費者は市場を形成する重要な役割を担っており、誰もが持続可能な消費を実践できるよう、企業や政府を動かすために消費者を支援しなければなりません。」

世界消費者権利の日についての詳細、持続可能な消費についての情報、各国での活動については、CI のウェブサイトをご覧ください。Twitter や Facebook で「#SustainableConsumer」と「#NoPlasticPollution」のハッシュタグをフォローしてください。

<https://www.consumersinternational.org/what-we-do/world-consumer-rights-day/tackling-plastic-pollution-2021/>

CI について：CI は、世界中の消費者の権利を強化・擁護するために、100 カ国以上の 200 以上の消費者団体が加盟している組織です。CI は、消費者が安全、公正、誠実に扱われることを実現するために、国際的な政策決定フォーラムやグローバル市場において、消費者の声を代弁しています。

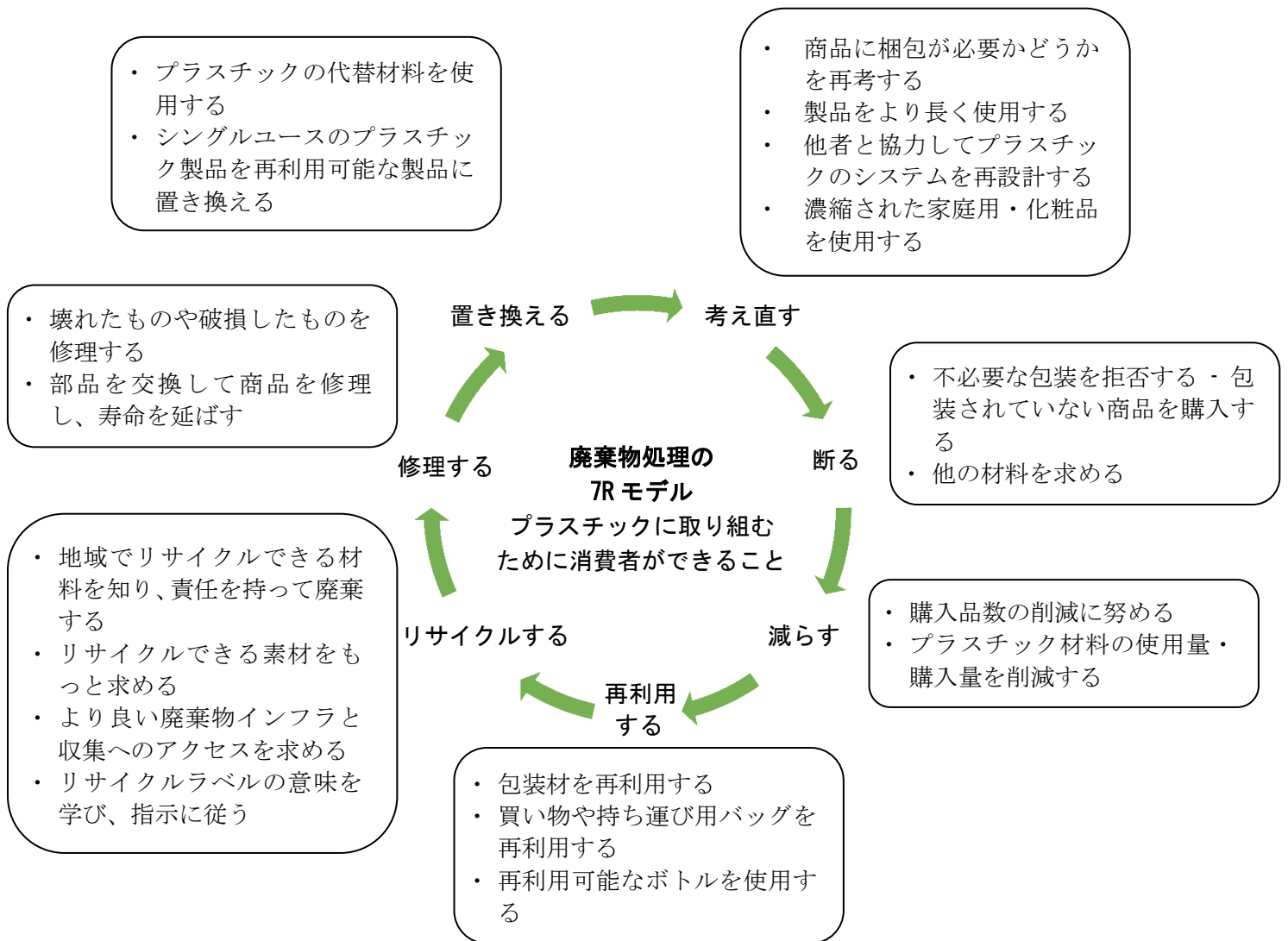
「キャンペーン概要資料 (Campaign Outline)」より

何ができるか？

2021 年世界消費者権利の日のキャンペーンに、以下の廃棄物管理の円形モデルをご活用ください。地域の消費者、企業、市民社会、政策立案者を巻き込んで、一緒にプラスチック汚染に取り組んでください。

世界消費者権利の日に向けた活動には、キャンペーンやロビー活動をベースにしたもの、あるいは意識向上を目的としたもの、代替的な実践を紹介するものなどがあります。以下に、活動を始めるためのアイデアをいくつかご紹介します。

廃棄物管理の円形モデル
(プラスチックの利用および価値を最大にしつつ、消費および無駄を最小にする主要原則)



プラスチック問題とプラスチック汚染に対する CI 会員の取り組み例

- **Consumer Reports (アメリカ)**
 Consumer Reports は、消費者向けに、フードチェーンにおけるマイクロプラスチックへの曝露を最小限に抑える方法を伝える記事を公開しています。
- **Which? UK (ヨーロッパ)**
 Which? UK は、雑誌の包装を生分解性澱粉包装に切り替えたり、スタッフに再利用可能な水筒やホットドリンクカップを無料で提供したりと、自分たちのビジネスモデルをどのように変えていくかを考えています。
- **Colectivo Ecologista Jallisco (ラテンアメリカ)**
 メキシコの Colectivo Ecologista Jallisco は、責任ある消費と表示に関する調査を発表し、消費者の混乱が蔓延していることを考慮して、この分野の研究をさらに進めていきたいと考えています。
- **CCZ (アフリカ)**
 ジンバブエの CCZ は 2019 年夏、自国のプラスチック汚染の問題を CI に提示しました。首都のゴミ捨て場の大きさと規模を撮影し、プラスチック製品の普及を指摘しました。
- **Fiji Consumer Council (アジア)**
 Fiji Consumer Council は、プラスチックが環境に与える影響を強調するために、特に地方で消費者の意識向上キャンペーンを実施しています。
- **CHOICE (オーストラリア)**
 CHOICE (Australian Consumers Association) は、特定の種類のプラスチック包装やマイクロプラスチックの危険性についての記事を発表し、プラスチック問題に積極的に取り組んでいます。

